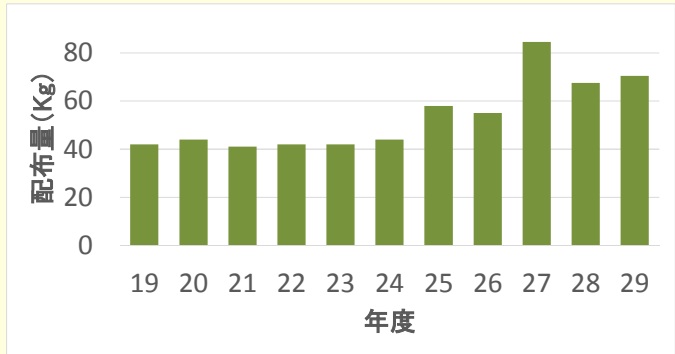


林業研究所における育種種子生産事業の取組み

林業研究所

林業研究所では、県内の造林に用いられる林業用の苗木（スギ、クロマツ、アカマツ、カラマツヒバ）を生産するための遺伝的に優れた種子（育種種子）の生産・配布（販売）を行っています。
 当研究所十和田ほ場の採種園において、整枝剪定技や着花促進処理などにより、育種種子を安定的に苗木生産業者に供給しています。今回は最も生産量の多いスギの種子生産の取組みを紹介します。

近年のスギ種子の配布量



〈十和田ほ場のスギミニチュア採種園〉
 複数の優良品種を混植し、それらの任意交配により生産した種子が一般造林に用いられている。

〈平成19～29年度のスギ種子の配布量〉
 40～80kg/年の種子を配布（種子の発芽率を30%とすると、1kgの種子から約6万本の苗木が生産される）。

スギ採種園の管理業務の紹介



萌芽枝育成後の採種木

萌芽枝育成(2～3年)



剪定後の採種木

採種木の定植

育成管理(追肥など)

ジベレリン処理

整枝剪定



ジベレリン(植物ホルモン)処理により花芽分化を促進

種子生産



ジベレリンの葉面散布処理により着花・結実した採種木

※ジベレリンの連年処理は採種木を衰弱させるため、4か所の採種園を整備し、1年1か所に処理している(4年サイクル)

今後の取組み

・スギ特定母樹(成長性(在来系統の概ね1.5倍以上)、雄花着生性(一般的なスギの花粉量のおおむね半分以下)及び、材質(剛性、幹の通直性)がある)による採種園への更新を進めます。

お問い合わせ

林業研究所 森林環境部 (Tel.017-755-3257)